

再生進むダイヤモンドエレクトリックHD 点火コイル世界シェア1位に向けて

日本の トップランナー企業

2021年10月、グループの組織構造を改組したダイヤモンドエレクトリックホールディングス(HD)。中長期経営計画で自動車部品の点火コイル世界シェア1位の実現に向けた体制作りが着々と進む。「倒産状態」だったダイヤモンド電機と旧田淵電機、現ダイヤモンド電機の同時再生を進める小野有理社長は、「腐った炭素になり果てていたダイヤモンドは鈍色ながらも輝きはじめ、四肢をへし折られていたゼブラは立ち上がりサバンナを疾走し、もはやペガサスとして天空を舞おうとしている」とその手心を語り、更に再生スピードを加速させる決意でいる。

3つの事業領域 黒字転換

2019年に事業再ダイアゼブラ電機に社生ADRにより経営再名を変更した。建中だった田淵電機をグループ化した同Hの再生シェアは、世界第3位に位置する。2020年夏にダイヤモンド電機鳥取工場(鳥取市)の電子機器事業を別工場に移管し、点を追いかける。同HDの21年3月期売上高は706億円。もともといた。その鳥取工場にダイヤモンド電機では10月、ダイヤモンド電機売上げの約7割を点火コイルの製造に必要なが、田淵電機を仲間化機能をダイヤモンド電機にしたことにより、今では点火コイルに代表される自動車機器事業、太陽光発電用パワーコンディショナやハイブリッド電源システムなどのエネルギーソリューション事業、エアコン、給湯器、ファンヒーターなどの電子機器事業がそれぞれ売上高の約3分の1ずつを占める。3つの事業の総売上高を24年3月期に1000億円以上にする目標を掲げる。営業利益率でも3.2%から4.5%に増大させる。

2019年に事業再ダイアゼブラ電機に社生ADRにより経営再名を変更した。建中だった田淵電機をグループ化した同Hの再生シェアは、世界第3位に位置する。2020年夏にダイヤモンド電機鳥取工場(鳥取市)の電子機器事業を別工場に移管し、点を追いかける。同HDの21年3月期売上高は706億円。もともといた。その鳥取工場にダイヤモンド電機では10月、ダイヤモンド電機売上げの約7割を点火コイルの製造に必要なが、田淵電機を仲間化機能をダイヤモンド電機にしたことにより、今では点火コイルに代表される自動車機器事業、太陽光発電用パワーコンディショナやハイブリッド電源システムなどのエネルギーソリューション事業、エアコン、給湯器、ファンヒーターなどの電子機器事業がそれぞれ売上高の約3分の1ずつを占める。3つの事業の総売上高を24年3月期に1000億円以上にする目標を掲げる。営業利益率でも3.2%から4.5%に増大させる。



▲ 小野 有理社長

人と技術に投資 「お客様要求品質第一」

16年に小野社長が創業一族の懇請を受け社長に就任して、まず手を付けたのが「お客様要求品質第一」に徹する「経費削減に徹する」環境整備に徹する「の社長三方針の」制定だった。この3ヵ月後に刷新した経営理念の追求、その翌年に策定した中長期経営計画の達成のために絶対必要な方針として「品質第一」ではなく、顧客にとって信頼性のある要求品質に



▲ 住宅用蓄電ハイブリッドシステム EIBS7

真の再生に向けて

1円決裁同様に率先垂範の表れとして小野社長自らトップセールスを行っている。点火コイルで自動車メーカーに「ティア1」として長く製品を納めてきた実績と信用を守りながら、車と家の領域で2021年10月にダイヤモンド電機として統合したダイヤモンド電機と旧田淵電機の2社のシナジーを創出し、グループとしての再生成長を目指す。小野社長は電気自動車(EV)の時代になっても内燃機関は残り、燃費や出力に優れる点火コイルの役割は続く。と見ている。そこで鍛えられ、培われてきた品質保証やコスト低減がエネルギーソリューションや電子機器事業の生産にも生きてきている。そして、今やグ



▲ マルチ点火コイル

DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS
ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社

〒532-0026 大阪市淀川区塚本1丁目15番27号 TEL:06-6302-8211

ハイブリッド蓄電システム 国内シェア1位 (当社調べ)

<https://www.diaelec-hd.co.jp>